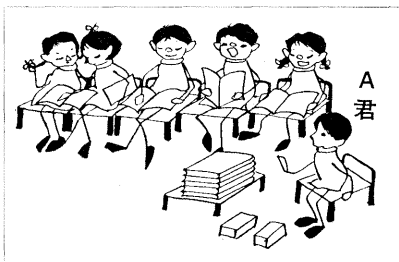
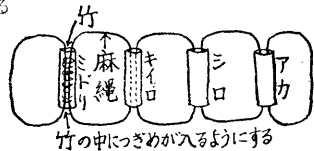


つなばしご



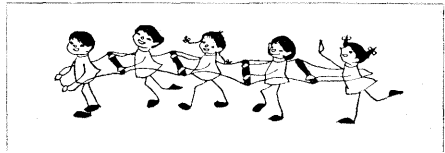
緒方 和子

- 材 料** 麻縄——直径 1.2cm, 長さ 130cm のを 10本 (二組分)
竹——直径 3cm, 長さ 20cm のを 8本 (二組分)
エナメル——赤, 白, 黄, 緑 (各一缶)
シンナー, 筆——4本, ビニールテープ, 針金
- 道 具** キリ, ナイフ, 金づち, ベンチ, 紙ヤスリ, ノコギリ, ノミ, 物さし
- 材 料 費** 955円 (二組分)
- 製作過程**
1. 竹を 20cm の長さに切る。雨切口にヤスリをかける。中のふしをぬく
 2. ロープを 1,30cm の長さに切る
 3. 竹にロープを通し, 針金でとめ, とめたところをビニールテープで巻く
 4. 竹に赤, 緑, 白, 黄のエナメルを塗る
- 特に考慮した点** ロープのつき目はほどける危険性があるので針金を 3カ所ロープに通して, まきつけさらにビニールテープをその上にまきつける
- 活動人数** 年長組 1クラス 26名 (男16 女10)



— (a) 電車ごっこ (室内)
電車
一つの輪に一人ずつ入る。
先頭が運転手
駅
室内に椅子を七個並べ、駅に待合室をつくる。
待っている間絵本をみるように用意し、電車がくる。と本は本置場に片つけて乗る。(駅員の A 君が指図する。)

る。)
駅員
A 君が駅員で切符切り、乗る時に渡し、降りた人から受け取って箱の中に入れる。
切符
4 人の男の子が別の場所に机



ふ	じ	き	わ
2	ん	せ	ん
み	ず	ほ	う
6	ん	せ	ん
えのしま			
おおさか			
さくらごう			
ろまんすかー			
5えん/えのしま			
10えん/えのしま			

をだし切符作り、わら半紙に縦、横にマジックインクで線を引いて一枚の紙から二十枚くらいの切符をつくる。

時刻表

おおさか	18
えのしま	14.15
	20.21
	22.25

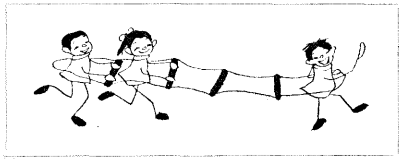
黒板に右下図のように書いて、駅員に大声で知らせる。

客

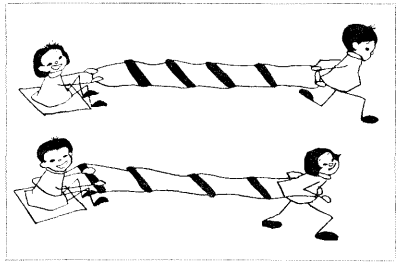
先頭の子が客をのせて玄関まで約40mのところを一周、駅に帰ってきて、次の客と入れかわる。先頭の子も交代。(以上が教材をだした第一日目のあそびでした。約2時間位あそぶ)

(b) 電車ごっこ (お迎え電車)

二人の子が前後にのり、



- (1) 両はじを一人ずつ持ち引き合う。
 (2) (1)ではすぐに勝負がついてしまうためか、まわりで番を待っていた子が、輪の中にもう一人ずつ入り、二人ずつ向かい合



玄関で待ち受け、登園した子どもから乗せて各クラスに運び降ろす。又玄関にもどる。これを繰り返す。

(c) 電車ごっこ (戸外)

平均台を一列になって渡ったり、スベリ台を連なって滑ったり、太鼓橋をのぼって降りたり、室内より活発。

二 つなひき

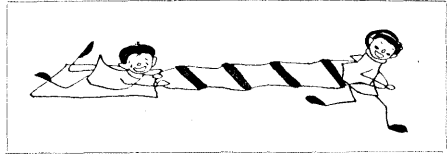
って引きあう。(20分位やっていたが、一度きりで終わってしまった)
 三 (a) スキー

- (1) 一人が一ばん後の輪につかまり前の子が手を後にまわして引く。(走る)
 (2) (1)では前の子が引きにくかったのか輪の中に入って走る。
 (3) 一人引き 二人滑る。
 三人引き 三人滑る。
 五人引き 二人滑る。
 三人引き 五人滑る。

引く子が多かったり、滑る方が多かったり、何度か繰り返しているうちに、どちらも多すぎるとやりにくいことに気がつく。スポンヤハンツが一べんで汚れてしまうので、タオルの雑布をだして、腰の下に敷かせたら、かえって滑りよくなり大喜びだった。はじめ廊下の角の柱にひっかかって、うまく曲れなかったが四、五回経験しているうちに大きく回ると曲りやすいことに気がつく。(時どき、上履の底のゴムですべりをさまたげられ、置いていかれることがある)

(b) スキー (ソリ)

スキーの時は雑布を腰の下に敷いていたが、その後腹ばいになって引かれている。その方が途中で置き去りにされず、一気に終点まで滑れて快適そう。名づけてソリ (タオル一本の長さの敷物を作ってあげる)



(c) スキー (お迎えスキー)

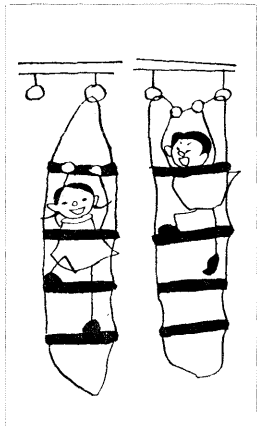
お迎え電車と同じく玄関で待機してスキーのようにして各クラスに運び降ろす。

四 せんすいかん

電車ごっこと同じだが降りる客は両腕を左右に動かして、泳ぐまねをして降りる。(せんすいかんごっこの遊びの時だけで終る)

五 (a) 忍者ごっこ

(1) 「忍者ごっこするからどこかに吊してよ」と持ってきたのでブランコの曲型につるしてみる。つるしてあるのでゆれて登りにくい



が、かえって興味をもったようす。

四段目くらいまで登ると上の丸太をつかむようになり、そこまで登る子、登れない子、又一番上の綱を握ると足を上げる瞬間ガクンと下がる時があり、怖がった子もいた。(右) (長いことつづいた)

(2) 左のように吊すとガクンとなる危険はないが地面すれすれに綱がくるので実際には二、三段しか登れないので右のようにする。

(b) 忍者ごっこ

「忍者ごっこするからもっと高いところにつるしてよ」といわれ、滑り台の階段と階段の間の手すりにつるす。これには大喜びで、一段目の綱が地面より40cm位高いので登りにくい、かえって興味をもった。はじめ三段



目位まで昇ると階段に移ったが、なれると最高段まで登って上に上り、スベリ台で滑りおろる。

六 (a) ブランコ

(1) 一人乗り 忍者ごっこのハシゴ登りをしているうち、ゆれることからブランコに発展



し、前後にこぎだす。

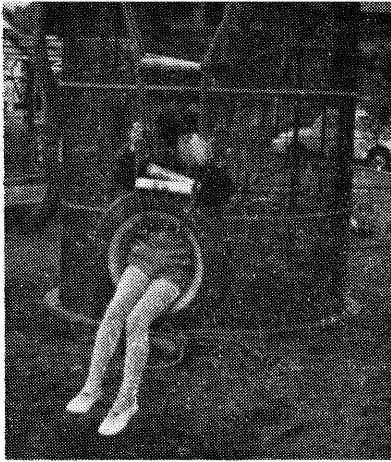
(2)二人乗り 向かい合って二人でこごと一人よりこぎやすいがあまり揺れない。

(b)ブランコ(タイヤブランコ)

タイヤをつるしてぶら下がりたいと前々からいわれていたので、写真のようにしてみる。一日きりであまり興味を示さなかった。

感想

まず第一日目何もいわずに保育室に持っていくと登園していた六、七人の子が一ぺんに集まり「なーに！なーに！」の連発。「何で



しょう」というと男の子が「忍者ごっここのハシゴになるよ」「電車だ」という。そこで何に使用して遊んでもよいといって渡す。

誰もが飛びついてきた理由として輪のつなごりの部分の竹に四色の色をぬり分けたこと、効果的だったと思う。

電車ごっこ、スキー、忍者ごっここのハシゴ登りが一番人気があり、行列をつくって待つ子が多かった。これはやはり固定してしまうより動くことに興味があるのだと思う。スキーでは滑りたい人が多く、大部もめたようだが、結局順番を決めてしていた。

反省

○輪の大きさは適当だった。

○ハシゴ登りの時、一段一段の高さが子どもの足よりやや高すぎて、登りにくそうであったが、ちよつと困難なことがかえって興味を起こさせ、だんだんなれるにつれて、うまく登れるようになったので良いと思う。

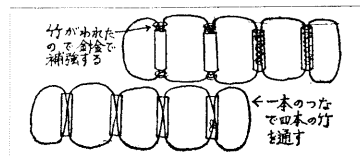
○遊び方の指導はほとんどしなかった。注意することもあまりなかった。いつも同じ子が使用しがちなので、その点ちよつと注意

した程度。子どもたちが何回も失敗を重ねながら次々と考えだした遊びだけ記した。

○教材に対する反省として

綱が竹によってつながっているので竹が割れると離れて危険。

忍者ごっこでやはり竹にヒビが入り、針金で綱と綱をしぼった。



上図上方のように五本に綱を切つてしまわず、一本の綱を上図下方のようにつなぐと竹が割れても危険でない。この場合、竹がくるくる回らないように注意。

はじめは年長組、一クラスが中心になって使用し、このあそびの六まで全部考へだしたが、その後は幼稚園全体にひろがり皆であそんだ。十一月も続いて活動している。この教材に、今までにみられないほど興味を示したことは全く驚きであった。これからもっと現場の保育者が教材研究する必要性を感じた。

(湘南学園附属幼稚園)